

令和4年11月24日

鉄筋工（市場単価）の積算について（お知らせ）

鉄筋工の単価設定における端数処理の考え方及び市場単価の加算率・補正係数の計算方法について、別紙平成27年11月30日付「鉄筋工（市場単価）の積算について」によりお知らせしておりましたが、他市場単価の計算方法との整合を図るため、土木工事設計積算システムが令和4年7月に改変されましたので、お知らせいたします。

なお、平成27年11月30日付「鉄筋工（市場単価）の積算について」のお知らせは廃止とします

1 土木工事資材等単価表の設定単価について

令和4年7月より下記単価は廃止となりました。

Q001001003	鉄筋工	加工・組立共	切梁のある構造物
Q001001004	鉄筋工	加工・組立共	地下構造物
Q001001005	鉄筋工	加工・組立共	橋梁用床版
Q001001007	鉄筋工	加工・組立共	RC 場所打ホロースラブ橋
Q001001008	鉄筋工	加工・組立共	差筋及び杭頭処理

2 設計単価の計算方法について

令和4年度 土木工事標準積算基準書 VI-2-①-5 2-4 直接工事費の算出 に記載のとおりとなりました。

川崎市建設緑政局総務部技術監理課
積算システム担当

廃止

平成27年11月30日

鉄筋工（市場単価）の積算について（お知らせ）

鉄筋工の単価設定における端数処理の考え方及び市場単価の加算率・補正係数の計算方法について、次のとおりお知らせいたします。

1 土木工事資材等単価表の設定単価における端数処理について

土木工事資材等単価表 25 ページに設定している加工・組立てを含む鉄筋工の単価のうち、「切梁のある構造物」、「地下構造物」、「橋梁用床版」、「RC 場所打ホロースラブ橋」、「差筋及び杭頭処理」の5種類については、「土木施工単価」及び「土木コスト情報」に掲載の「一般構造物」の単価に次表の補正係数を乗じた単価の平均値としております。また、その端数処理については、有効数字3桁とし、有効桁数未満は切り捨てています。

表 補正係数2の数值

区分		一般構造物
補 正 係 数	切梁のある構造物	1.00
	地下構造物	1.10
	橋梁用床版	0.85
	RC場所打ホロースラブ橋	1.15
	差筋及び杭頭処理	0.95

2 設計単価の計算方法について

土木工事標準積算基準書VI-2-①-4にあります加算や補正を用いた設計単価の計算方法については、同基準書 表 2.2 の補正係数2の適用基準により、「土木施工単価」及び「土木コスト情報」に掲載の「一般構造物」の単価に、補正係数の数値を乗じた値を平均した単価（システム登録単価・有効数字3桁切捨）をもとに、同基準書表 2.2 の加算率や補正係数1の補正計算を行っております。

(設計単価) =

$$\boxed{\text{一般構造物の市場単価}} \times (T_1 \text{ or } T_2 \text{ or } \dots T_5) \times (1 + S_0 \text{ or } S_1 / 100) \times (K_1 \times K_2 \times \dots K_7)$$

↑ 有効数字3桁処理

以上

川崎市建設緑政局総務部技術監理課
積算システム担当